

事後評価書

箇所名	かみしま 神島地区	事業名	地域水産物供給基盤整備事業	課名	水産基盤整備課
事業概要	工期	平成6年度～平成21年度	全体事業費	7,750 百万円(負担率:国80～55:県20～35:他0～10)	
	(下段H17再評価)	平成6年度～平成21年度	(下段:H17再評価)	7,339 百万円(負担率:国80～55:県20～35:他0～10)	

事業目的及び内容

◇事業目的
 神島は、伊勢湾口に浮かぶ人口400人余りの鳥羽市4有人離島のうち最も遠い島です。伊勢湾口部で外海と接しており、特に太平洋側からの強い波浪を受けやすい地形となっております。また、平地が少なく農地がほとんどないことから、漁業が地域の産業の中心となっております。
 当漁港は、神島唯一の港であり漁業のみならず生活物資搬入など島民の生活に欠かせない施設です。しかしながら、荒天時には安全に係留することができない状況であることや、港内の泊地は狭小で船舶の航行に支障を来しており、用地・係留施設も慢性的に不足した状態でした。
 また、市営定期船乗り場は、潮の干満差が大きく、船への乗降が危険であり物資の積み卸しに大変な労力伴うため、改善が望まれていました。
 これらを改善するため、護岸・防波堤等の整備により港内静穏度を確保し、岸壁・浮桟橋・船揚場等の整備により陸揚げ等の作業環境を改善し、漁業活動及び島民生活の効率化及び安全性の向上を図りました。

◇事業内容
 護岸工(L=765.1m)、護岸工(改良)(L=260m)、突堤(1)(L=40m)、突堤(2)(L=12.5m)、
 南防波堤(L=70m)、自然調和型防波堤(1.0式)、防波堤撤去(L=140m)、-2.0m泊地(A=245㎡)、
 -3.0m泊地(A=2,720㎡)、-3.0m泊地(A=5,076㎡)、-3.0m岸壁(L=130m)、-3.0m岸壁(1)(L=64m)、
 -3.0m岸壁(2)(L=124m)、-3.0m岸壁(蓄養)(L=61m)、-3.0m岸壁(改良)(1.0式)、浮桟橋(N=1.0基)、
 船揚場(1)(1.0式)、揚場(2)(1.0式)、道路(L=497m)、用地(A=6,168㎡)

1. 事業の効果

◇費用対効果分析

費用対効果分析は、『水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン、平成27年4月改訂、水産庁漁港漁場整備部』の手法に準拠し実施しました。

	H17前回再評価 (基準年:H17)	今回評価 (基準年:H27)	備考
総便益額(B)	9,122 百万円	19,892 百万円	
年間便益額			【発表資料での効果】
水産物の生産向上	398,338 千円/年	383,274 千円/年	港内静穏度向上による避難回数の削減 用地確保による作業の効率化
漁業就労環境の向上	30,828 千円/年	75,300 千円/年	係留施設整備による労働環境の改善
生活環境の向上	23,748 千円/年	23,960 千円/年	定期船利用客の利便性の向上
非常時・緊急時の対応	0 千円/年	31,856 千円/年	救急搬送時間の短縮
自然保全・文化の伝承	0 千円/年	10,781 千円/年	(藻場創出による漁獲可能資源の維持・増養効果)
その他	0 千円/年	2,193 千円/年	(新たな雇用の創出)
合計	452,914 千円/年	527,364 千円/年	
総費用(C)	8,039 百万円	15,165 百万円	
事業費	7,339 百万円	7,750 百万円	
維持管理費	2,000 千円/年	2,000 千円/年	
費用対効果分析(B/C)	1.13	1.31	
算定基礎となった主要因の変化			【主要因の変化の理由】
登録漁船数	137隻	102隻	登録漁船隻数の減少
鳥羽本土への避難回数	10回	2回	静穏効果の発現
新規畜養施設の整備中止	4ト	-	計画畜養魚重量の減少
浮桟橋の整備	-	1基	乗客乗降の安全性向上
救急救命率の向上	-	計3回	ドクターヘリの出動回数
藻場創出による水産資源の増加	-	5,347千円	イワガキの漁獲高

◇その他の効果(金額換算できない効果)

- ・船揚場及び上架施設を整備したため、漁船係留や漁船上架作業時の安全性が向上しました。
- ・浮桟橋を整備したことにより、市営定期船の一般利用客の安全性が向上しました。

2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

- ・神島漁港の外郭施設に自然調和型マウンドを整備したことにより、前面の石積みマウンドを基礎として新たな藻場が創出されました。ここでは、現在、アラム・ワカメ・クロメ・ホンダワラ等が繁茂しており、イワガキ・アワビ・イセエビ・スズキ・タイ等の生物生産の場として機能しています。神島のイワガキは、整備後の自然調和型マウンドで漁獲されるものであり、イセエビ等は資源保護の観点から禁漁としているため、水産生物の餌場、隠れ場・休息場、産卵場として、増殖効果が得られています。
- ・藻場は、水質浄化等の自然環境の保護・修復する機能を持っていることから、水質浄化効果が発現されています。

3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化	
<p>◇漁業生産の状況</p> <p>H6年に整備を開始してから、以下のように、神島の水産業の情勢は変化しました。</p> <p>① 魚価の低迷、燃油の高騰</p> <p>② 漁業者の高齢化と後継者不足</p> <p>しかし、このような状況は神島に限らず全国でも同様の傾向であり、水産業の衰退が問題となっています。</p> <p>◇神島漁港の状況</p> <p>全国、三重県、神島漁港の漁船隻数の推移、陸揚金額の変化、漁業従事者の変化について、H5年を1とした比率でみると、全国、三重県全体に比べて、漁船隻数、漁業従事者の減少割合は、神島漁港のほうが低い傾向があることがわかります。特に、漁業従事者数は、人口約400人に対して、漁業従事者(正・準組合員数)が人口のほぼ半数を占めており、神島の基幹産業となっています。今後、水産業を持続し、島の生活を支えるために、漁業整備等の水産基盤の整備・環境保全が必要です。</p>	
4. 県民の意見	
<p>当漁港の利用者及び背後住民を対象に平成27年7月に実施したアンケートでは、61世帯(配布200世帯)から回答があり、主な意見は次のとおりです。</p> <p>◇漁港利用者の意見</p> <p>護岸・防波堤の整備について70%、浮桟橋・岸壁・用地整備に対して69%が以前より良くなったと回答</p> <p>○良くなった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・護岸、南防波堤ができたことにより、港内への波の入り方が少なくなった。 ・鳥羽へ避難することが少なくなった。風が強く吹いても安心して船をおいておける。 ・浮桟橋は荷物、漁網などの積み降ろしと船の乗り降りが楽になった。 ・用地が広くなったので作業がしやすい。 <p>○悪くなった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港の入口の波の返しが強くなった。 ・定期船乗り場、防波堤を撤去してから、波が強くなった。 ・市場回りの岸壁は、干潮の時階段及び係留施設が少ない。 <p>◇地域住民の意見</p> <p>護岸・防波堤の整備について59%、浮桟橋・岸壁・用地整備に対して68%が以前より良くなったと回答</p> <p>○良くなった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波の強さが弱くなった。 ・浮桟橋の整備で、船の乗り降りが楽になった(重い荷物、老人、足の悪い人)。 ・下水道を港外に流して、港内がきれいになった。 <p>○悪くなった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の頃は港内は砂浜があり、現在は便利で良くなっていますが、自然が減り、淋しく思う時があります。 ・港が広くなって、道具など多く置いてかえってきかない。もう少し整理したほうが良い。 	
5. 再評価の経緯	
平成17年度の再評価において、事業の妥当性が認められたことから、事業継続が了承されています。	
6. 今後の課題等	
<p>神島漁港は、地域の主産業である漁業活動の拠点、生活物資搬入などの島民生活の拠点として、重要な役割を果たしていますが、漁業者の減少と高齢化、漁港施設の老朽化など多くの課題があります。</p> <p>現在、漁業者の減少と高齢化という課題はあるものの、品質の高いタコ、タイ、イワガキ等の生産性は維持されているため、今後は漁港施設の機能強化や保全及び維持管理を推進していきたいと考えております。</p> <p>① 高齢漁業者が安全に作業ができる係留施設(岸壁)等の整備</p> <p>② 漁業後継者の獲得を目指し、安定した漁家所得につながる漁港整備(機能強化)</p> <p>③ 老朽化の進む既設施設の維持・保全</p>	